

新宮山彦ぐるーぷ第1950回

行仙宿の点検整備(台風21・22号による被害把握と復旧)

◇実施日；2017年11月03日(金・祝日) 晴
◇参加者；川島 功、児嶋道夫、濱野兼吉、上村洋司・和美、
大江加予子、山川治雄、梶野照雄。 8名。

十月中旬以降、秋雨前線の停滞で長雨が続いた上に、下旬週末には台風21号(10/22)・台風22号(10/29)の接近があり、とりわけ台風21号は新宮地方に890mmの豪雨が降り、新宮市内にお住みの会友数名が床上浸水に遭われ、心よりお見舞い申し上げます。

この台風により、前鬼林道、池郷林道、国道425号線が通行止めになり、10/30に前鬼林道・池郷林道は通行可能になったが、国道425号線の通行止め区間は、21世紀の森から浦向側のカナウナギトンネル付近迄となり、行仙宿への巡回は出来そうにないかと判断し、池郷林道ゲートから持経宿間の路面状況を奈良森林管理事務所・池原事業所の高木森林官に尋ねると(10/31)、明日路面状況確認に入り、結果を報告して下さる事になる。その時に浦向側の通行止め箇所状況を尋ねると、カナウナギトンネルを越えた距離標No378付近で歩いて通れ、上は問題ないとのこと。沖崎氏は四ノ川林道口の距離標No402と2.4区、四ノ林道から補給路登山口迄約1.2kmで計約4kmとのこと、通行止め箇所から歩いて行仙宿の水場等の台風被害把握と復旧に行く事に決める。

11/2日朝に、池郷林道ゲートから持経宿間の林道は、陥没は無いが大きな倒木が2箇所あり、車の通行は無理との連絡がある。新宮6時40発。熊野川町日足辺りは、放射冷却等による山霧、北山川沿いは川霧が漂い、陽光の差し入ら無い空模様だが、不動トンネルを抜けると一変し青空が広がる。

国道425号線浦向ゲート口で川島車(児嶋・濱野・大江同乗)と上村車(山川同乗)は、予定8時より早い7時40分頃に合流して国

道を辿る。登るにつれ紅葉した山並みが青空で一層映える。

通行止め箇所(距離標No378)前の路側に駐車。前日遅れるとの連絡があった梶野車も合流し全員が揃う。

支谷の多量な谷水が、舗装面の上下を流れて陥没し、凹凸に波打った舗装面が約50m続く、3箇所位に砂袋を置けば4WD車なら通行可能との、梶野氏談。



舗装面が凹凸・陥没により通行止め

歩いて四ノ川林道口に

道路沿い・奥駆道の山並みの紅葉は、始まっており、怪我の功名で紅葉をゆっくり堪能しながら歩いた。四ノ川林道口に至る間に、支谷から舗装面に流出した砂利の箇所があったが、ジョレン等で除けられる程度である。

四ノ川林道に入ると、側溝詰りで水が流れた地道は、荒れていて、車高が低い車には支障があり、ジョレン等で均す必要がある。

ガードに持たれた杉斜木があり、山川氏が持参チェーンソーで処置して下さる。

補給路登山口に着くと、小枝が散乱し薪に被せていた波トタンが飛散し、モノレールが横切る支谷から流下した土石で側溝が完全に埋まっている。モノレール支柱に土石が当って流下している事から、支柱を点検したが支障は無かった。

先行した梶野・児嶋氏でモノレールが降ろされる。



四ノ川林道の斜木杉伐採

継ノ窟斜面の紅葉

支谷流出土石で側溝埋まる

水場のパイプから水の出が悪いので修復する必要があるとの事、山川・川島がパイプ口の網上の落葉を除去しパイプ位置を調整して復旧する。

杉植林帯を辿る補給路には、杉葉・小枝が散乱して風が強かった事がうかがえ、掻き除けながら辿る。モノレール終点からの尾根道には、落葉等の飛散は無い。



水場のパイプ水量復旧



第二ベンチ横の小倒木



鉄塔下の道の小倒木

第二ベンチ横には、枯れた小径木が倒れていた。第二ベンチ上

の鉄塔下の道にも小径木があり鋸で除去する。和佐又から縦走して来た単独男性(平治宿泊)が降りて来て、奥駈道の倒木状態を尋ねると「かなりあった、浦向まで歩きバスに乗る」との事。行仙宿に10時10分頃に到着すると、モノレールで登り先着した梶野・児嶋氏により、台風により小屋周りに飛散した落葉・小枝を掃除する道具及び水場点検・復旧に必要な、大ハンマー・ジョレン・トンガが準備されていた。



紅葉



窓ガラスにゴミ固着



マンホールの蓋飛ばぶ

全員が揃い、上村・山川氏は笠捨山捲き道分岐迄の奥駈道巡視。大江さんは行者堂のお供え替え(玉置神社のお札納め)と掃除。上村奥さんは便所等の小屋周りの掃除。梶野・児嶋・濱野・川島は水場の点検・復旧。に分担し作業にかかる。

水場径には、落葉も少なく倒木も無い。水場手前の峪橋を渡るが、水音がしないので水場が埋まっているかと思つたが、水場上の落口にトガの大きな枝が引っ掛っていたが、水溜り場には大葉の落葉が浮かんでいたが、水が溜まっている。土石で埋まっていなかったのでホットする。

8Lポリタンク2個(梶野・濱野持参)に水を汲んだ後、雪平鍋で落葉混ざりの水を汲み出し、ジョレンで土石を掻き寄せて、き

れいに水たまり場の底浚えをする。



落葉を除けて水を汲む

水場の落葉・小石等を雪平鍋で底浚え

行仙宿に戻ると上村・山川氏が、既に戻って小屋周りを掃除されておられ「分岐迄倒木2本を処理、捲き道に倒木が見えた」とのこと。今回は、台風接近時の風よりも台風通過後の北寄りの吹き返しの風の方が強かったため、尾根道の北側斜面に倒木が発生し易いと想定される。

資材倉庫横から1斗缶が奥駆道下に吹き飛んでいて、上村和さんが拾って下さる。又、裏の砂・砂利置場に被せていた煙抜きフードタンが飛散していた。道普請時使用の為に、ロープを弛めていた事が飛散の一因で、重石に割木3本を乗せ、ロープで締め直し復旧した。

山川氏から落葉・小枝等の清掃に効力のあるブロワー・熊手を備えるようにと提案があり、今後備えたい。

11時半前になり作業を一段落させ、昼食とする。

食後の児嶋喫茶のコーヒーに聖護院お供えのお下がり菓子と上村さん差し入れの小餅を賞味し歓談していると、12時10分過ぎに白谷トンネル登山口から笠捨山をピストンする単独男性が立寄る。倒木在ったか聞くと「倒木は2本程在った」とのこと。



昼食・差し入れお菓子で懇談中



本日の作業者

昼食後、奥駆道を辿り行仙岳を経て白谷トンネル登山口へ下る点検巡視班(山川・上村夫妻・川島)と宿内掃除等を行い補給路登山口へ下る班(児嶋・濱野・大江・梶野氏)に分かれて下山する事にする。

持経宿への林道・平治宿への奥駆道の巡視、通行止めになっている本宮(玉置)辻く七越峰間の点検巡視のために、小チェンソーを降ろすことにする。行仙宿の直ぐ北斜面の奥駆道には、松の生大木が半ばから折れて登山道を塞いでいる。



行仙宿上の松倒木処理



行仙岳山頂にて



行仙岳北面の腐倒木伐採

2台のチェンソーで処理する。行仙岳迄倒木が無く、行仙岳北面奥駆道に腐倒木があり、先行した山川氏が処置して下さる。

行仙岳捲き道分岐から白谷トンネル登山口分岐に戻り小休止。白谷登山口へと下ると手摺に持たれた杉斜倒木が在り、山川氏のチェンソーで伐採処理する。手摺が傾いているので上村・山川・川島が、力合わせて起して復旧する。

行仙宿新築の際は、この急勾配のルートは何回も往復したが、補給路登山道(H6年)が出来てからは、補給路登山口から行仙宿へ登る様になり、此処を通るのは本当に久しぶりで在る。下りとは言え、登りは相変わらずきついと再認識した。



白谷トンネル東口登山道の手摺に倒れた杉伐採と手摺復旧

登山口から待合わせ場所の四ノ川林道口に14時過ぎに到着。補給路から下った班は、宿内の掃除機での掃除、汚れた窓ガラス拭き掃除、便所周りの清掃、薪割り等を行って13時過ぎに下山して14時前に此処に着いたとのこと。児嶋氏が先行下山しているとのこと。

舗装林道は下りになるので足早になり通行止め駐車地に戻る。駐車地に戻ると、先行した児嶋さんから南海堂のアップルパイとアリナミンドリンクを差し入れて下さり、腹ごしらえをして、15時前に各車帰路に着く。



登山口付近からの紅葉



四ノ川林道口で合流



通行止め駐車地に戻るほ

行動タイム

新宮6:40→7:40国道425浦向口7:45→8:00通行止め箇所(距離標No378)8:10→四ノ川林道口(距離標No402)8:50→9:15補給路登山口9:25→9:50モノレール終点→10:10行仙宿10:20→10:35水場10:55→11:25昼食12:20→行仙宿12:30→13:00行仙岳山頂13:05→行仙岳北面捲き径分岐13:12→13:20白谷トンネル登山口分岐13:25→白谷トンネル東口登山口14:05→四ノ川林道口14:10→14:45通行止め箇所14:55→16:20新宮。

(記：川島、写真：梶野・川島)